

「民学産公」協働研究事業 Bコース

三鷹安全バスツアー

『緑と水と星空の三鷹を巡る 安全ツーリズム』

遠山尚恵（参加と協働推進枠）

目次

1	協働研究事業の概要・目的	P 3
2	参加団体プロフィール	P 3
3	協働研究事業の期間	P 3
4	協働研究事業の背景	P 4
5	協働研究事業の詳細	P 5
6	協働研究事業の結果と考察	P 10
7	ワークショップとアンケート結果における検証	P 18
8	今後の計画	P 27

1 協働研究事業の概要・目的

【取組の目的】

- ・「市民全員！地域応援隊」の創設を目指す
三鷹市民が日常生活のなかで危険や異変に気付くアンテナやセンサーを持ち、
関連部署へ報告できる市民社会の育成・構築
- ・「三鷹を好きになる」取組から市民による地域力の向上を目指す
「三鷹の良さ」を実感し、楽しみながら安全への理解を深める

【企画概要】

三鷹市内を観光バスで巡り（楽しもう！）、警視庁三鷹警察署のふれあいポリス同行の元、危険や異変に気付くセンサーをみがきつつ（発見しよう！）、三鷹の良さを再認識できるツーリズム（考えよう！）を開催した。市民同士の絆を作り深めるワークショップを実施し、問題点や課題を享受。三鷹愛を深める取組を行う。

2 参加団体プロフィール

名称：みたか地域応援隊準備事務局

市民参加でまちづくり協議会「Machikoe（マチコエ）」で、安全なまちづくり部会
防犯・消費者保護グループでは、「市民全員！地域応援隊」の創設を主たる政策提言とし
た。安全面での「共助」で地域力を向上していくために、市民がまず「三鷹の良さ」を実
感し、楽しみながら安全への理解を深めることが大切と考え、「Machikoe（マチコエ）」卒
業後、当団体「みたか地域応援隊準備事務局」を発足した。

グループメンバー一同で、「自然と星空の三鷹を巡る安全ツーリズム」を企画実行。観光
バスをチャーターして三鷹市内を巡り（楽しもう！）、危険や異変に気付くセンサーをみが
きつつ（発見しよう！）、三鷹の良さを再認識できるツーリズム（考えよう！）をテーマ
に活動している。

3 協働研究事業の期間

2024年6月20日～2025年2月15日

4 協働研究事業の背景

三鷹市では令和3年7月から令和5年12月まで、魅力と活力のある三鷹を目指し、市民と一緒に新たな取り組みとして、市民参加でまちづくり協議会「Machikoe（マチコエ）」活動が行われた。筆者は「安全なまちづくり部会 防犯・消費者保護グループ」に活動のメンバーの一員として参加した。市民ボランティアである協議会メンバーが、政策テーマ部会やエリアマネジメント部会に所属し、様々な手法を用いてまちの声を聴き、部会でのディスカッションを通して、市民参加の実践によって多様な市民の思いやアイデアを聴き取っていった。誰一人取り残さない、持続可能で魅力と活力のある地域社会の実現に向け、市民とともに未来のまちのビジョンを描き、三鷹市基本構想の改正や第5次三鷹市基本計画の策定に向けた政策提案に結実させた¹。

「安全」の有難さは非日常の事態に陥ったときに実感するものである。「安全」と「危険」は表裏一体であり、日常生活では気が付きにくい、いざ発生すると私たちの生命や身体、財産に影響を及ぼし、失いかねない脅威となる。自分や家族の「自助」だけでは限界があり、地域の力を結集して行う「共助」、国や地方自治体の支援からなる「公助」が不可欠である。「Machikoe（マチコエ）」活動を通じて、当グループでは「共助」である地域力向上のためには、市民がまずは、「三鷹の良さ」を実感し、楽しみながら安全への理解を深めることが大切だと考えた。

そこで、市へは以下の政策提案を行った。

① 「市民全員！地域応援隊」の創設

- ・市民が高齢者や障がい者、子どもを見守り、犯罪など近所や日常での異変に気付いた際に市や関係先に通知できる「市民全員！地域応援隊」の仕組みを作る。
- ・市民ボランティアが異変トリアージを判断できるよう研修を受講し、市民から寄せられる情報の優先順位を付け、市と連携をとることを考えている。ルールに基づいた運用を行う。これにより、市の負担軽減が図れ、市民の活動は地域ポイントと連動させる。
- ・市民と市民、市民と関係機関との顔がみえる関係性を作ることを目標とする。
- ・市内の事業者による見守り協力体制を拡張する。

② 情報アクセスの改善

- ・自分に必要な情報が得られる仕組みを作る。
- ・適切な相談窓口や対応方法など、ワンストップでアクセスできる仕組みにする。

¹ 三鷹市 HP 参照 https://www.city.mitaka.lg.jp/c_service/091/091623.html

- ・ICT 先端技術を採用する。

③ 市民と事業者に向けた防犯教育・消費者教育の実施

- ・市民全世代に向けて、事業者をも対象とする、防犯・消費者教育を実施する。市民向けには、自由な時間・場所でオンデマンド受講できるコンテンツを構築し、受講と市が現在試行運用中の地域ポイントを連動させる。
- ・事業者向けにはコンプライアンス研修を実施し、受講した事業者には三鷹市が認定する。マークを授けると同時に悪質事業者対策として「訪問販売業者登録制」を採用する。

④ 社会弱者の犯罪や消費者被害に対し、生活支援を含めた支援体制を構築

- ・犯罪や消費者被害を一過性のものととらず、生活全般を含めた支援体制をつくる。
- ・犯罪抑止や消費者保護の視点から、市民宅の電話機能や訪問時のインターフォン機能を拡充し、設置費用について市が一部補助支援を行うことを要望する。

上記、政策提案は三鷹市の基本計画において、①と②の項目については「計画への反映は難しいが引き続き事業手法を検討する」との評価だった。③と④の項目については、「基本計画への反映を検討する」との評価をいただいた。

行政が及ばないところは、市民が補っていけばよい。市民が安全と表裏にある身近な危険を発見し、考え、問題点や課題を共有する。市民同士が触れ合い、「三鷹を好きになる！」取り組みから、市民が日常生活のなかで危険や異変に気付くアンテナやセンサーを持ち、行政の関連部署へ報告できるような市民社会の育成・構築を図ること、市民による地域力の向上を図ることを目的とし、みたか地域応援隊準備事務局を発足させ、「自然と星空の三鷹を巡る安全ツーリズム」を企画し、三鷹市から資金の補助をいただいて2023年に実施。本年度においては、より多くの参加者からの多角的な意見を得るため、継続して活動した。

5 協働研究事業の詳細

今回の研究は、1「楽しむことで住んでいるところに愛着を持つ」、2「非日常の危険である『防犯や防災について』気づきをえる」、3「気づきを共有する」、4「より良い暮らしを得るために行動する」、5「自ら行動することによって効果があったことを実感する」さらに住んでいるところに愛着をもつ。という良い循環を引き起こすための実証実験をとっておこなう。

この実証実験をおこなうため、下記のとおり、バスツアーの企画を行い、三鷹市民の参加者をつどい、ツアー終了後にワークショップを行い、アンケートや今後の活動へのスタッフへの呼びかけをおこった。

5-1 企画内容

5-1-1 全体像

身近に存在する「危険」から「安全」を考えることをテーマに掲げた。深刻なテーマではあるが、楽しんで学ばないと身につかない、ひいては集客にもつながらないため、観光バスをチャーターして市内を巡り（楽しもう！）、危険や異変に気付くセンサーをみがきつつ（発見しよう！）、三鷹の良さを再認識できるツーリズム（考えよう！）をテーマに掲げ企画した。

専門家との対話や講義から学ぶため、午前中の行程において、警視庁三鷹警察署の「ふれあいポリス」神津警官に同行いただき、参加者に対して危険性や安全面で注意すべきことのショート講話を依頼した。三鷹市内の魅力ある場所を訪ね、三鷹市発行のハザードマップを活用し、日ごろ安全と思われる場所に潜む危険と思う場所を参加者同士で確認ができるとよいと考えた。楽しみながら視点を変えつつ、改善点を発見する。実際に東京防災アプリの機能に触れてもらうなども行い、最後にどうすればもっと良い三鷹をつくれるかを参加者で話し合い、気づきを共有し、考え、市民同士の絆を作り深めるワークショップを実施することにした。2023年の企画との大きな違いとしては、「ハザードマップ」で場所を確認しながら散策したこと。また、新しく新川の里エリアと国際基督教大学を散策したことである。

5-1-2 企画概要

- 【企画ツアータイトル】 「三鷹安全バスツアー」
- 【企画サブタイトル】 「緑と水と星空の三鷹を観光バスで巡る安全ツーリズム」
- 【対象者・定員】 三鷹市在住 在勤 在学の18歳以上の方・40名
- 【集合場所】 三鷹駅北口付近(集合場所の詳細はメールにて)
- 【開催日】 2024年11月30日土
- 【参加費】 無料
- 【集合時間・受付】 9時20分集合・受付開始:9時10分~
- 【終了予定】 16時30分終了予定

【ツアー行程】

9:30 三鷹駅北口 出発
1 丸池の里周辺探索

- 2 ふれあいポリスさんによる安全講演(さんさん館)
～ 昼 食 (各自) ～ (さんさん館)
- 3 国際基督教大学キャンパス内探索
- 4 国立天文台散策
- 5 大沢の里周辺探索
- 6 ワークショップ(さんさん館)
- 16:30 終了予定

2024年11月30日(土) 緑と水と星空の三鷹を巡る安全ツアー 行程表			
時刻	バ ス 乗 降 場 所	巡 り ス ポ ッ ト	備 考
9:30	乗車 三鷹駅北口 日本生命武蔵野ビル前		
9:50	下車 仙川平和公園 付近	仙川平和公園～勝淵神社～丸池公園	
10:40	乗車 丸池公園 付近		
10:50	下車 元気創造プラザ横	元気創造プラザ～市役所～さんさん館 11:05～ふれあいポリス神津警官のお話 11:35～昼食	*さんさん館 4階(4・5・6会議室) *お弁当を注文された方へ 受取時に代金1000円のお支払をお願いします。
12:20	乗車 市役所北		
12:30	下車 国際基督教大学	国際基督教大学 I C U 構内 探索	
13:15	乗車 下車した場所と同じ		
13:25	下車 国立天文台	国立天文台 構内探索	
14:15	乗車 下車した場所と同じ		
14:25	下車 大沢の里	古民家～水車小屋	
15:10	乗車 下車した場所と同じ		
15:30	下車 市役所北	ワークショップ	さんさん館 4階(4・5・6会議室) ★アンケート記入後、 グループでディスカッション ⇒ 全体発表
16:30	終了 *三鷹駅希望の方 16:40 乗車 市役所北		
17:00	*下車 三鷹駅北口		

5-2 取組みのポイント

- (1) 三鷹市の魅力ある観光資源や研究施設を安全の視点で選定し、活用した。
- (2) 参加者募集は、チラシを 500 部作製し、各コミュニティセンターや、スーパーなどに設置した。また、イメージ画像をスタッフが関連するとおもわれるグループや SNS、市民活動掲示板にて拡散した。また、チラシ以外にも市報での呼びかけもおこなっ

た。これに伴い、google フォームによる受付とメールによる受付をおこなった。

- (3) 「安全」と表裏の「危険」について取り上げるため、警視庁三鷹警察署「ふれあいポリス」に協力をいただいた。ふれあいポリスが同行し、参加者はふれあいポリスの講座や対話を通して、地域で生活する安心感を得られるようにした。
- (4) 巡り場所では、「ハザードマップ」を参照し、マップに記載された市内の危険個所を参加者と確認し合った。
- (5) ツーリズムではバス移動ではあるが、現地は徒歩で巡るため不測の事態に備えて、行事保険に加入した。また、事前に事務局（運営メンバー）でコースの下見を行った。実施当日は、一行の前後にスタッフを配置し、安全遂行に配慮した。
- (6) 初対面の参加者同士がコミュニケーションをとれることを重視した。
- (7) 昼食の弁当は市内の法人が運営するサービスを利用した（希望者のみ）。

本事業は三鷹ネットワーク大学推進機構「『民学産公』協働研究事業」として開催します。

緑と水と星空の三鷹を観光バスで巡る安全ツーリズム

参加者募集集中!

三鷹安全 11/30 (土)

バスツアー 9:30~16:30

参加費無料

昼食代実費：昼食弁当代 1,000円
*昼食代は当日集めさせていただきます。
アレルギー等ある方は事前お知らせいただき、昼食をご持参ください。

【対象・定員】三鷹市在住 在勤 在学の18歳以上の方・40名
【集合場所】三鷹駅北口付近（集合場所の詳細はメールにて）
【開催日】2024年11月30日土
【集合時間・受付】9時20分集合・受付開始：9時10分～
【終了予定】16時30分終了予定

お申し込みはこちら
先着40名11月17日締切

「みたか地域応援隊」事務局（代表）
mitakaontai@gmail.com

本事業は三鷹ネットワーク大学推進機構「『民学産公』協働研究事業」として開催します。

緑と水と星空の三鷹を観光バスで巡る安全ツーリズム

楽しもう!

三鷹市内の2つの里と、国際基督教大学（調整中）、国立天文台を大型貸切バスで巡ります。各地では、ハザードマップを活用し日常に潜む危険を確認します。まずは、楽しみましょう。

※なお、当日は3回、1時間ほど施設内等をお参ります。
動きやすい服装で参加下さい。

行程（予定）

- 9:30 三鷹駅北口 出発
- ①丸地の里周辺探索
- ②ふれあいポリスさんによる安全講演～昼食～（さんさん館）
- ③国際基督教大学キャンパス内探索
- ④国立天文台敷地
- ⑤大沢の里周辺探索
- ⑥ワークショップ（さんさん館）
- 16:30 終了予定

※この行程は一般化する可能性があります。変更した場合はメールでお知らせいたします。

発見しよう!

三鷹の魅力ある場所を巡り、“三鷹警察署のふれあいポリスさん”からの講演をうけて、目線をかえたりしながら、危険だと思うところや、改善点を発見しましょう!!

※ふれあいポリスさんとは、「犯罪の起きにくい社会づくり」の実現に向けて、地域の絆の再生と社会規範意識の向上を目的として活動をしている経験豊富な警察の方々です。

考えよう!

ワークショップで気づきを共有し考え市民同士の絆を作りましょう。

「市民全員！地域応援隊」

私たちは、Machikoe（市民参加でまちづくり協議会）の活動において、市民が高齢者や障がい者、子どもを見守り、犯罪など近所や日常での異変に気付いた際に市や関係先に通知できる「市民全員！地域応援隊」の仕組みづくりを提案しました。これは、市民ボランティアが異変トリアージを判断できるよう研修受講し、市民から寄せられる情報の優先順位を付け、市と連携を作ることが活動目的です。今回の安全ツーリズムで、楽しんで、発見して、市民が無理なく地域応援隊として、三鷹市をよりよく改善する礎を作ればと思っています。

お申し込みはこちら
QRコードからお申込み下さい
先着40名11月17日締切予定

「みたか地域応援隊」事務局（代表）
mitakaontai@gmail.com
担当 遠山、徳本

5-3 「検証点・達成点」の確認

この企画を通して、研究における「検証点・達成点」の確認をした。

検証点1 「三鷹が好き」を増やす

よりよい社会の形成に主体的にかかわる市民を目指す。「三鷹が好き」な市民が地域応援隊として活動し三鷹市の安全なまちづくりに大いに寄与する礎となる。そのため、この企画への参加者にまずは、楽しんでもらったことを確認する。

検証点2 「市民同士で問題点や課題を共有」

三鷹市の安全なまちづくりを視点に場所を巡り、市民同士で問題点や課題を共有、三鷹市をさらに良くする知恵や方法を享受するため、ふれあいポリスさんによる講演やワークショップによって、質疑応答や意見交換を通して、課題を共有する。また、この効果を検証する。

検証点3 「地域社会への参加意識の向上」

「改善点を発信→改善される→改善されたことが報告される→達成感や参加意識が生まれる」フローから、市民自身が地域社会に関わることで地域が良くなる実感を得ることと地域社会への参加意識を高めることにつながることを検証する。

5-4 「先見性」について

当該研究の「先見性」は、

- ・市民参加、市民主体の活動のため「地域への参加意識が生まれる」起因になる
- ・「市民全員！地域応援隊」の活動への創設につながる
- ・三鷹市民がより三鷹市に愛着を持ち、市民が主体となる社会構築により三鷹市の安全なまちづくりへとつながること
- ・ICTの活用を連携させることで、新たな取組が期待できること。

があげられる。

5-5 「社会貢献性」についての検証

この研究は、「社会貢献性」の確認も行う。

- ・参加者同士および運営者側と顔見知りになり、三鷹市をさらに良くする知恵や方法を享受すること、
- ・社会参画（よりよい社会の形成に主体的にかかわったこと）への参加者の満足度は高くなること
- ・地域社会の発展に寄与する取組であること

について企画の実施を通して検証する。

6 協働研究事業の結果と考察

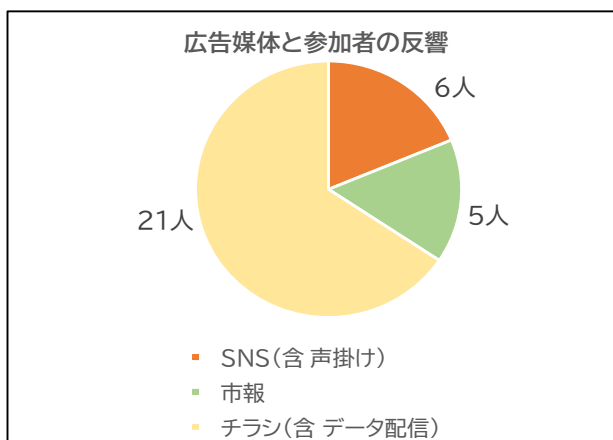
6-1 企画会議

安全バスツアーの企画実行のため、月に1, 2回、6月から11月にわたって、スタッフによる企画会議をおこなった。企画会議は数回にわたっておこなわれ、散策場所の案を複数出していった。三鷹で行ってみたいところやイベントなど他の人に紹介したいところなどの意見を出し合うことによって、スタッフ間の仲間意識も醸成されていった。これも成果の一つだと思われる。

6-2 参加者募集による反響

6-2-1 チラシの制作は PowerPoint で行い、印刷部数は500部、これ以外にも、PDF形式で Facebook などの SNS 等でも拡散をおこなった。市民からの反響は、SNS 等による反響が6件、市報による反響が5件、チラシやその他は21件であった。

広告媒体	合計人数
SNS(含 声掛け)	6
市報	5
チラシ(含 データ配信)	21
合計人数	32

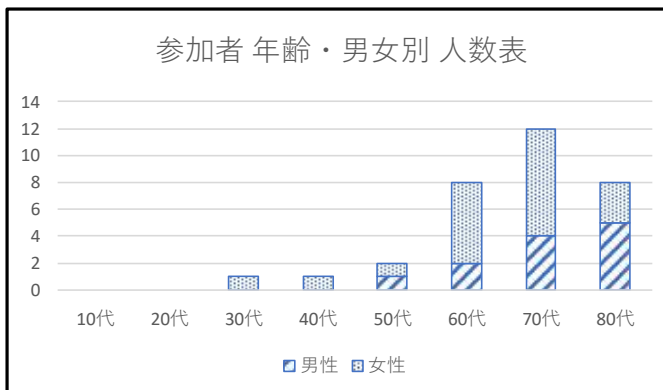


6-2-2 参加者応募者の年齢層と人数

32名から申込があったが、実際の当日の参加者人数は25名であった。
(スタッフを含め29名)

昨年度も参加された方が3名。夫婦での参加が7組。親子の参加が2組あった。
顔見知りがいったり、家族が誘い合うことで参加が促されると推察される。

年代	男性	女性	合計人数
10代	0	0	0
20代	0	0	0
30代	0	1	1
40代	0	1	1
50代	1	1	2
60代	2	6	8
70代	4	8	12
80代	5	3	8
合計人数	12	20	32



6-3 ツアー当日の様様

ツアーの行程はポイントが多いため、複数の項目に分けて報告をする。

6-3-1 三鷹駅北口集合



当日の参加者はスタッフ4名、一般参加者25名（うち2023年参加者〇〇名）であった。2023年よりも30分遅く集合時間を設定したこともあり、集合場所へ参加者が早めに集まり、余裕をもって出発することが出来た。

6-3-2 新川の里エリアへの車中

三鷹駅北口より仙川平和公園の入り口までの間、バス車中においてスタッフの自己紹介を行い注意事項等の説明をおこなった。

6-3-3 丸池の里周辺

仙川平和公園の入り口において、ふれあいポリスの神津さんと合流。ふれあいポリスさんのご紹介をおこなった。仙川平和公園においては、故北村西望氏の代表作「平和祈念像」を見学。スタッフからは、北村氏が三鷹市に隣接する井の頭公園内にあったアトリエで、長年、創作活動が続けていたことや、その間、市内の小学校と交流を深めるなど、三

鷹市と深く関わりをもっていたことや、三鷹市が世界連邦都市宣言や非核都市宣言をおこなっていることなどを説明した。



ここから、仙川平和公園から仙川の川沿いを下っていき勝淵神社に移動した。途中、参加者は、ハザードマップを利用して場所や発災時の危険性の確認をおこなった。また、仙川に降り立った、鷺やカワセミが観察できた。勝淵神社到着後、スタッフから柴田勝家の孫柴田勝重が中原エリアなどをおさめており、勝淵神社を建立したことや兜塚について説明をした。

次に丸池の里に移動した。三鷹市が、「牟礼の里」、「大沢の里」、「丸池の里」が整備されており、現在「北野の里」が計画されていることや、これらの里は、小学校の教育などにも活用されており、地域住民の憩いの場として活用されていることを説明した。



また、大雨の際には、仙川沿いのエリアでも洪水が発生する恐れがあることについてハザードマップで再度確認するよう促した。これに、加えてふれあいボリスの神津さんより、このあたりの治安について説明があった。この後、しばし、丸池の里エリアを自由に散策し、バスの乗車場所へと移動した。

6-3-4 市役所周辺まで

バスに乗車後、新川団地を経由して市役所に向かった。この道中には、ちびっこ農園、市民農園、農業公園などがあり、市民が農業を楽しめるサービスがあることなどの説明を

した。その後、三鷹中央防災公園・元気創造プラザのむらさき橋通り沿いで下車。



三鷹中央防災公園・元気創造プラザの説明をしながら北側を歩き、市役所敷地内へ。弓道場や鷹場標石を見学し三鷹市には江戸時代鷹狩場があったという説明をしつつ、さんさん館に移動した。

6-3-5 さんさん館にて（ふれあいポリス神津さんからの講演）



2024年10月（ツアー実施の約一か月）に、三鷹市の大沢地区の住宅に雨戸を壊し複数人物が押し入った、強盗未遂事件が発生したこともあり、強盗が嫌がることについての話があった。また、警察からの電話があった際にどのように本物か見分けるか、楽しんで防犯する方法や、コミュニティの大事さなどの説明があった。最後に「なにかこまったことや不審だなどおもったことがあったら、三鷹警察に電話して、ふれあいポリスをよびだしてください。」と顔の見える相談窓口の案内があった。講演のあと、参加者は昼食の時間となった。

6-3-6 市役所から国際キリスト教大学へ

市役所北側からバスに乗車し、国際基督教大学へと移動。道中には、大きな家が多いことや、観光農園等を営む農家もあることなどを紹介した。

6-3-7 国際基督教大学にて

国際基督教大学校内にバスを乗り入れ同窓会事務局のあるアラムナイハウス前で下車し、散策開始。



大学本館横から、図書館前の道を ICU 高校の方面に北上し、ICU 高校の校舎を右手に見ながら、理学館方面へ、きれいに色づいた木々を眺めながら、トロイヤー記念アーツ・サイエンス館、1999 年に国登録有形文化財に登録された泰山館を見学した。その後、東ヶ崎潔記念ダイアログハウス・大学食堂、大学礼拝堂を見学。約 30 分歩き、バスに乗車した。社内では、スタッフから、国際基督教大学の隣がスバルであることに関連して、三鷹にはもともと中島飛行機や日本無線をはじめとする軍需関連工場があり、それが、戦後、自動車産業に移り変わって、現在に至っているという説明を行った。

6-3-8 国立天文台

守衛所（国の登録有形文化財）をとおり、国立天文台中央棟前のバス駐車場でバスを下車

2023 年には 4 D2U シアターの鑑賞を行ったが、今回は土曜日の開催であったため、各施設の見学を行った。





まず向かったのは、国の登録有形文化財である第一赤道儀室。スマートフォンのアプリによって解説が聞けるようになっていることを説明。施設内をみていただき、次に向かったのは、同じく国の登録有形文化財である大赤道儀室。ここは、天文台歴史観にもなっている。次に、西棟一階の展示室を見学、アロマ望遠鏡などの説明をみた。次に旧図書館（国の登録有形文化財）の建物を右手に見ながら、子午儀資料館（国の登録有形文化財）の施設内にある、国の重要文化財であるレプソルド子午儀を見学、さらに、ゴーチェ子午環室（国の登録有形文化財）を見学、最後に芝生の中にそびえたつ天文機器資料館の中を見学し、紅葉の敷地内を楽しみながらバスへと戻り、大沢の里へと向かった。大沢の里への途中、この前の月に発生した強盗未遂事件の場所がこの近くであること、天文台近くはむかしから自然豊かな分、夜は暗いという説明をおこなった。

6-3-9 大沢の里（古民家と水車小屋）

大沢の里の古民家近くでバスを下車し、大沢の里の古民家敷地内へ、古民家内部を見学し、大沢わさびを育てるボランティアあることを紹介。国立天文台や国際基督教大学は大沢の里より高台にあり、この高低差である国分寺崖線より湧き水がでること、この湧き水により野川が形成され、野川は二子玉川先で多摩川に注ぎ込むが、東京西部での大雨の際には多摩川の水位が高くなり、水が多摩川から逆流してくるため、洪水が起きやすいエリアだという説明を加えた。



また、この野川のあるエリアをハザードマップで確認してもらい、洪水被害の広さを確認してもらった。さらに、台風や線状降水帯による豪雨場合、高台に設けられた避難所（七中）に避難する際には、避難経路になっている階段は、水が滝のようになって流れていくため、別の経路も確認するべきであると説明した。その後歩いて、水車小屋に移動し、水車を見学し、バスへと戻った。



6-3-10 大沢の里からのバスでの移動

大沢の里からバスは、調布航空宇宙センター飛行場分室（大沢 6-13-1）の前をとおり、大沢グランドと調布飛行場の間の道を通った。途中、掩体壕を両手に見学。大沢グランドが大きく掘られて作られてることについて、大雨の時には野川の氾濫を防止するため、野川からの水を一時貯留して洪水を防止する機能があることを説明した。バスは、東八道路を通過して市役所の北側へと向かった。

6-3-11 ワークショップ（さんさん館）

昼にふれあいポリスさんの講演を行った場所にもどり、一日のまとめとしてワークショップをおこなった。

ワークショップは、

- 「1、 ふれあいポリスさんの講演を聞いて感じたこと、 街歩きで安全について感じたことを共有してください。」
- 「2、 浸水ハザードマップをみながらまちを歩いて感じたこと、 気づいたことを共有してください。」
- 「3、 どうすれば、日ごろから備えること気になることができるかを共有ください。
(スマホアプリで日頃から備えるという紹介をいたします。)」

と書かれた紙と筆記用具を配布して行った。

メンバーを3つのグループに分け、一つの設問ごとに時間を設定し、記述は自由記述形式で記述してもらった。その後、時間を設定し各グループで各自が書いたことを発表し

てもらい共有し、最後に各グループの代表者が発表するというスタイルをとった。

3の「どうすれば、日ごろから備えること気になることができるかを共有ください。」に入る前に、スタッフから東京防災というアプリケーションの紹介をおこなった。このアプリケーションには、災害時の情報共有という機能のほかに、日頃から防災について備えるために必要な機能があり、一緒にすんでいる人数、年齢、性別、ペットなどを入力すると、必要な備蓄品のリストが得られる機能や、自分の住んでいるところや仕事場などから近い避難所への避難経路を GoogleMap のストリートビューの機能を利用して確認をできる機能、災害に関するクイズから学べる機能などが提供されていることを紹介。また、東京でもクマが出没することがあり、クマの目撃情報などが提供されていることも紹介し、これについて思ったこと、感じたことを共有してもらった。



ワークショップの終了後、書面の裏面にあるアンケートに記入して提出してもらった。

6-3-12 アンケート

アンケートの設問は以下の4問

- ・初参加かどうか
- ・(昨年も参加した方にのみ) 昨年との相違について
- ・次年度はスタッフとして参加してみたいかどうか
- ・参加した感想

への回答をアンケートに記述してもらい。部屋の出口で回収をさせていただき、バスへと誘導した。

6-3-13 解散

市役所での解散を望む人もいたのでその方たちはこの場で解散となった。それ以外の方にはバスに乗車していただき、三鷹駅北口へとむかった。途中、むらさき橋通りを通った

ので、むらさき橋のゆらいである、武蔵野の紫草について詠まれた古今和歌集の歌と、紫草で染めた「むらさき染」の紹介をした。数分で三鷹駅北口に到着、参加された複数の方々から、スタッフに「楽しかった、ありがとう」と、お礼のお言葉をいただき、ほぼ定刻どおり、解散となった。

6-4 ワークショップの共有結果について

回収した、ワークショップの共有結果は25件、それぞれ、自由記述で回答いただきこれを回収した。(結果をまとめたファイルは、ワークショップ&アンケート結果.pdfとして提出)

7 ワークショップとアンケート結果における検証

7-1 検証点1 「三鷹が好き」を増やす。(地域愛着の深化)

回答者25人中22人(88%)が楽しかったとの感想を残しており「三鷹が好き」を増やすことが出来たと思われる。参加者の声にも、「大変楽しく勉強させて頂きました。ありがとうございました。」や、「三鷹の自然と安全な暮らしについて、知識と経験(体験)ができてよかった。」ともあり、地域の自然や歴史や文化を防災や防犯に結びつけ、経験することによって、地域愛着の深化は図れることが実証されたとも思われる。ただし、課題としては、若年層や子育て世代へのアプローチを強化する必要がある。

7-1-1 ポジティブな発言(気づきにつながった、役に立ったなど)についての分析

回答件数

25件

ポジティブな発言(気づきにつながった、役に立ったなど)

24件(96%)

具体的な発言例

- 講演内容への評価:
 - 「ふれあいポリスさんのお話はたいへん勉強になりました。」
 - 「とても具体的でわかりやすく楽しませて頂きながら脳裏に残りました」
 - 「実際に、プロの話はきいておくためになるんだな。とおもった。」
 - 「分かりやすいお話でした。大変参考になりました。」
 - 「具体的なお話で参考になった。」
- 新たな気づき:
 - 「最近の大沢地区の強盗についてはビックリ!」

- 「三鷹は比較的治安が良いが、その分防犯意識に欠けている感じもあるとのこと」
- 「油断がある。スキがある生活を送っていることが反省させられた。」
- 「三鷹市が比較的安全な街であると再認識し安心した。」
- 「三鷹は治安が意外といい 緑地が多いから多いと思っていた」
- 「サギが、東京都3位とは、人が居ない所があった。」
- **具体的な対策:**
 - 「元気のある明るい家に見えるようにしたいと思いました。」
 - 「窓の補強等」
 - 「ひとり暮らしでないように見せる具体的な方法を教えてくれて大変参考になりました。」
 - 「防犯では外から人がいるようにみせることが大事。古くさくしない、モダンを取り入れる」
 - 「窓ガラスのテープを貼ろうと思った」
 - 「ガラスのシートを貼るなど、外から見て人がいると思わせるなど」
- **ふれあいポリスへの評価:**
 - 「ふれあいポリスさんを知らなかった。」
 - 「ふれあいPさん、お話し上手。わかりやすく具体的。」
 - 「ふれあいポリスさんの存在を知ることができ、相談しやすくなった。」
 - 「イメージだけでなく、三鷹は本当に治安がよい方だと知れてよかった。丸池公園など緑地のあたりで犯罪があまりないというのも驚いた。「ふれあいポリス」というお役目の人がいることもはじめて知り心強いと思いました。」
 - 「困ったことがあったらふれあいポリスさん（神津さん）に相談できるようなので 安心しました。」
 - 「ふれあいポリスという存在を初めて知ったが、警察に相談すると思うとちゅうちょするが、ふれあいポリスと知って聞きやすいと思った。⇒役割心強いと感じた」
 - 「ふれあいポリスの存在 大きいと感じた。」
- **地域との連携:**
 - 「今回のツアーや大沢の里でのボランティアさんなどと接し、地域の方々とのコミュニケーションが、防犯でも とても重要ということを実感しました。」
 - 「腕章付けて歩くだけで地域守れる」
- **電話詐欺への注意:**
 - 「不審な電話への対応の仕方が話を聞いて参考になりました。」

- 「警察から電話がかかると知りました。」
- 「売込親切そうな電話は即切る。軽く相手、合づちをしていたがやめる。」
- 「電話の注意点を教えてもらった 何げなく電話に出ていたがこれからは注意したいと思った」
- その他:
 - 「楽しんで防犯をとの言葉に、それぞれの対策が効果的となる」
 - 「コミセンで好きな趣味をやっています。女性一人で暮していたり高齢者も多いです。今日の話聞かせてあげたいです。」
 - 「穏やかな街並みで安全を感じつつ、このままで大丈夫なのかも考えないといけない?」
 - 「道路に落葉が少なく歩きやすかった」
 - 「20件ひなんしている。あいさつ、目を合わす」
 - 「3回聞いた。窓ガラスのテープをはった方がよいと思った。分かりやすかった」
 - 「自然豊かで環境の良さと、災害の問題は、なかなか、両立しづらい。全国的に同じか。特に暗渠は気になる。(玉川上水) 周辺も気になる。」
 - 「お金をかけずに防犯をできることを考える。楽しみながら時間もかけながら進める」

7-1-2 分析結果のまとめ

今回のアンケートでは、**96%の回答者がふれあいポリスの講演や街歩きを通して、新たな気づきや具体的な対策**を得るなど、**ポジティブな発言**をしていることがわかった。特に、ふれあいポリスの活動内容や、身近な防犯対策の重要性を認識したという声が多く、今回のイベントが市民の防犯意識向上に大きく貢献したと考えられる。また、多くの回答者が具体的な対策を挙げており、今後の行動に繋がる可能性が高いと言える。

7-1-3 今後の活用

今回のアンケート結果を参考に、以下の取り組みを進めることが考えられる。

- 防犯に関する情報発信の強化
- ふれあいポリスの活動の周知
- 地域住民との連携強化
- 防犯対策に関するワークショップやイベントの開催

7-1-4 行動につなげようという発言についての分析 具体的な行動計画

回答の中には、講演内容や街歩きで得た気づきを基に、具体的な行動計画を立てていると思われる発言がいくつか見られる。

- **窓の補強:**「窓の補強等」という発言からは、窓の防犯対策を具体的に検討している様子がうかがえる。
- **家の改善:**「元気のある明るい家に見えるようにしたいと思いました。」という発言からは、家の外観を改善することで防犯対策につなげようとする意図が感じられる。
- **情報共有:**「コミセンで好きな趣味をやっています。女性一人で暮していたり高齢者も多いです。今日話を聞かせてあげたいです。」という発言からは、得られた情報を他の人と共有しようとする行動意欲が表れている。
- **窓ガラスのテープ:**「窓ガラスのテープを貼ろうと思った」という発言からは、窓ガラスの防犯対策を具体的に実行しようとする意図が読み取れる。

7-1-5. 意識の変化

具体的な行動計画までは言及していないものの、講演や街歩きを通して防犯意識が高まり、今後の行動に繋げようとする発言も多く見られる。

- **油断の反省:**「油断がある。スキがある生活を送っていることが反省させられた。」という発言からは、今までの生活態度を改め、防犯意識を持って行動しようとする意識の変化が感じられる。
- **注意喚起:**「三鷹は割と安全という気持ちが強かったので、しっかり気を引き締めましょう。というお話しはとても良かった。」という発言からは、改めて防犯意識を持つことの重要性を認識し、今後の行動に活かそうとする意欲がうかがえる。
- **情報への関心:**「ふれあいポリスさんを知らなかった。」という発言からは、防犯に関する情報への関心が高まっていることがわかる。

7-1-6 行動へのハードル

一方で、回答の中には、行動に移す上でのハードルを示唆する発言も見られた。

- **安全への過信:**「穏やかな街並みで安全を感じつつ、このままで大丈夫なのかも考えないといけない?」という発言からは、地域の安全性を認識しつつも、過信せずに防犯対策を講じる必要があるという葛藤が感じられる。

7-1-7 まとめ

今回のアンケート結果からは、多くの回答者がふれあいポリスの講演や街歩きを通して、防犯意識を高め、今後の行動に繋げようとしていることがわかる。具体的な行動計画を立てている人もいれば、意識の変化や情報への関心を示す人もおり、その度合いは様々である。

今後は、回答者の行動意欲をさらに引き出し、具体的な行動に繋がられるようなフォローアップが重要だと考えられる。例えば、防犯対策に関するワークショップや相談会を開催したり、地域住民同士の情報交換の場を設けたりすることが有効だと思う。

7-2 検証点2 市民同士で問題点や課題を共有

ほぼすべての人が課題を認識し、ワークショップにおいて有意義な共有が行われた。参加者全員がハザードマップを活用し、ワークショップにおいて「避難経路の複雑さ」「高齢者向け避難所不足」などの散策中に気がついた課題を共有することができた。

特に参加者からは「隣近所とのコミュニケーションの重要性」が繰り返し指摘されているところが注目される。参加者の声としては、「ハザードマップを見て、自宅近くの暗渠が浸水リスク3と判明。避難経路を再検討中」や、「大沢地区の避難所が遠く、階段が多いことが課題だと気付いた」などもあり、いつも見慣れた日常では気づかない課題が共有された。また、隣接市町村とのハザードマップ連携不足（市境表示が不明瞭）など、市単体では解決できない課題も共有された。

ワークショップの2つ目の設問についての分析

回答件数

25件

7-2-1 気づきがあった（役に立った）という発言についての分析

17件（68%）

具体的な発言例

- 新たな気づき：
 - 「仙川、野川の浸水については、始めて聞いた。全くの意識外の事だった。」
 - 「野川、仙川エリアの浸水について、今まで考えた事がなかったが、今回現場を見て、大変だなと思った。」
 - 「浸水ハザードマップを見ていたが、初めて、マップと実体を知りました。」
 - 「普段水があまりない川も危ないと知って意外だった。」
 - 「地震に関し興味があったが、意外に浸水の危険性が高いことを知って良かった。」
 - 「三鷹にもアップ&ダウンがあることに気づけた。」
- 備えの必要性：

- 「野川沿いに住んでいるので、水害の危険への備えの必要性を感じました。(非常品の持出し等)」
- 「また、どこに避難すれば安全なのか、をあらためて 肝に念じました。」
- 「住む場所はよく考えて決めないといけないと 身にしました。」
- 「何かあった際の避難場所を確認すべきと感じた。」
- 「まさか自分がとならないようにハザードマップで把握している必要がある。」
- 「気をつけなければいけないと思いました。」
- **ハザードマップへの評価:**
 - 「今回ハザードマップを見ましたら、今まで私の感じていた事が記載されていたので嬉しくなりました。」
 - 「ハザードマップをかなり熱心に見る機会を得て良かった」
- **具体的な提案:**
 - 「可能なら市で CG や AI などであふれた状況を作成と見せてほしい→具体的なイメージがわく」
 - 「地図は目的地であり、街灯とか建物や電柱に避難先の名前とか矢印を明示してほしい」
 - 「状況に合う所を!!」

7-2-1-2 分析結果のまとめ

今回のアンケートでは、**68%の回答者が浸水ハザードマップを見て、新たな気づきや備えの必要性を感じるなど、役に立った**という発言をしていることがわかりました。

特に、今まで意識していなかった浸水のリスクを認識したり、ハザードマップの重要性を再認識したりする声が多く、今回のアンケートが市民の防災意識向上に貢献したと考えられます。

また、CG や AI による浸水状況の可視化や、避難場所の明示など、具体的な提案も寄せられており、今後の防災対策に役立つ可能性があります。

7-2-1-3 今後の活用

今回のアンケート結果を参考に、以下の取り組みを進めることが考えられます。

- 市民向けの防災啓発活動の強化
- ハザードマップの改善
- 避難経路の整備
- 地域防災計画の見直し

7-2-2 行動につなげようという発言についての分析

備えの必要性を感じた:

- 「野川沿いに住んでいるので、水害の危険への備えの必要性を感じました。(非常品の持出し等)」
- 「また、どこに避難すれば安全なのか、をあらためて 肝に念じました。」
- 「まさか自分がとならないようにハザードマップで把握している必要がある。」
- 「気をつけなければいけないと思いました。」

情報収集への意欲:

- 「ハザードマップをかなり熱心に見る機会を得て良かった」
- 「自分の住んでいるところに意外と色がついていた。ひなん場所を知れた」

地域への関心:

- 「大沢、仙川の方は、経構・普段から浸水の事を気にしながら生活されているんだな。大沢で小学校に被難できないのは大変だと思う」

7-3 検証点3 地域社会への参加意識の向上

「改善点を発信→改善される→改善されたことが報告される→達成感や参加意識が生まれる」フローから、市民自身が地域社会に関わることで地域が良くなる実感や達成感を得ることで地域社会への参加意識を高めることにつながることを検証については、現時点で、改善点を発信することが出来ないため、今回はこのツアーに参加し、ワークショップによって課題を共有した参加者に来年度のスタッフとなってくれる人がどの程度いるかによって、地域社会への参加意識の向上を検証した。結果として、参加者の3名の方(12%)がスタッフとして、次年度以降の活動に参加しても良いとの意向をしめしてくれた。これは、非常に高い成果といえる。

その他、今回ふれあいポリス神津さんに講演をしていただいたことについて、「ふれあいポリスの存在を知り、地域で安心感が増した」という声を代表に安心感が得られたことに対する満足感が高かったといえる。安全に安心して暮らしにつながる活動に改めてコミュニティ参加に対する有効性を実感させられた。

7-3-1 ワークショップの3つ目の設問についての分析

前提

東京都が配布している東京防災というスマートホンアプリの「同居人数と性別や年齢等による備蓄品リスト提供機能」、「防災クイズ」、「避難経路確認機能」などを紹介したのち

に、「どうすれば、日ごろから備えること気になることができるかを共有ください。」という問いに答えてくれたアンケート結果についての分析

回答件数

25 件（記述なしの回答 2 件を含む）

ポジティブな発言（気づきにつながった、役に立ったなど）

23 件（92%）

具体的な発言例

- アプリへの関心:
 - 「東京防災アプリ ダウンロードしてみる。」
 - 「防災アプリをインストールする(しました)」
 - 「『東京防災』の活用のご案内をもらったのはよかった。(アプリを入れていたがそのまま活用していなかったの)」
 - 「東京防災アプリり出し方を見て、アプリを入れた」
 - 「『東京都防災アプリ』を知ったことは大収穫でした。」
 - 「東京防災アプリ、利用しようと思います。」
 - 「防災アプリがあるということがわかったので、活用したい。」
- 具体的な行動:
 - 「近日中に至近の避難場所に行ってみる」
 - 「家族間の連絡先を決める」
 - 「水(ペットボトル)の確保。避難場所の確認をしておくこと。」
 - 「家でひなん、家からひなんと避難所は人口 1/10 しか入れない 9/10 ににげる場所ない、最底限のものはおいてとく必要あり」
 - 「家の備蓄、在宅避難 トイレ、飲料水、食品」
 - 「集合する場所を確認する。マンションの場合 在宅ひなんをする必要なものをそなえておく。」
 - 「備蓄し、簡易をイレは最優先で備えたが、スマホの使えなくなるのかわかっているの、まずは避難所や、在宅支援所を確認しようと思います。」
 - 「家族で外出時/自宅で揃っている時など場合による避難の仕方を話し合っている。家族 1 人ずつ、持ち出せるよう防災グッズをナップザックに入れている。」
- 気づき:
 - 「日常危機感を持って過ごす。」
 - 「安易に電話に出ない。 見なれない人には注意する。ガラスにはフィルムを貼る。 ご近所と仲良く。」
 - 「避難所に幾つかの種類の違いがあることを知りました。医療拠点につい

では、はじめて認識しました。食料の備蓄の必要性を感じました。」

- 「何を出来るか少し考えたいと思いました。」
- 「浸水する可能性を話しあうことが重要」
- 「日常の取り組みが備えなる取り組み 地道なコミュニケーション活動 歩き回り 声がけなど」
- 「隣り近所とのコミュニケーションが必要と感じた。情報が即入る様にしたい。」
- 「家族全員帰宅 スマホアプリで調べることが出来る」
- 「ご近所と授受を交わす。留守時の依頼 避難所 10%」
- 「問題はちゃんと実行できるかどうか頑張ろう!」
- 「防災のことをよく考える。日頃から意識する。」
- 「意識することが大事」
- 「異常時ではなく通常よりチェック」
- 「日々の変化に気が付くようにする。近所の人とのコミュニケーションをとる。」

● その他:

- 「食糧の備蓄 東京都の防災をスマホで見れる事はありがたい」
- 「本日感じたこと、考えたことを持ちつづけられると良い 努力しましょう」
- 「マップ、チェックリストが役立ちそう。」
- 「全て準備はなかなかスパース的にも困難そういう場合どうすればよいのか知りたい。」
- 「☆熊目撃情報」

7-3-2 分析結果のまとめ

今回のアンケートでは、**92%の回答者が東京防災アプリや防災に関する情報に触れて、新たな気づきや具体的な行動を起こすなど、ポジティブな発言**をしていることがわかった。

特に、東京防災アプリへの関心が高く、実際にダウンロードしたり、活用しようとしたりする人が多いことが特徴的である。また、避難場所の確認や備蓄品の準備など、具体的な行動を計画している人も多く、今後の防災対策に繋がる可能性が高いと言える。

7-3-3 今後の活用

今回のアンケート結果を参考に、以下の取り組みを進めることが考えられる。

- 東京防災アプリの更なる活用促進
- 防災に関する情報提供の強化

- 地域住民との連携強化
- 防災訓練やワークショップの開催

8 今後の計画

参加者について、2回のバスツアーの課題として、若年層の参加率が低いことがあげられる。三鷹市に移り住んで時間のたっていない市民や学生を対象に、市や大学と協力関係築き、活動を発展させることが出来ればと思う。

この活動は企画の段階でも、自分が紹介したい三鷹の魅力を共有するため、非常に有意義な意見交換も行われることもわかってきた。今後も参加者をはじめ多くの人たちにスタッフとなってもらい、自分が見つけた三鷹の魅力を共有しながら継続的な活動ができる仕組みの構築していきたい。

また、他行政で市民からの不具合報告ができる行政スーパーアプリの活用がすすめられている。これらの研究も三鷹市の方角も調査しながら、取り入れた行政の成果を参考に、三鷹市ならではの行政アプリの活用を研究したい。